群教セ	G14 － 01
	平 29. 265 集
	総合ー小

主体的に課題追究し、情報を整理・分析できる児童を育てる総合的な学習の時間

――「ステップシート」と「思考ツール」の活用を通して――

特別研修員　小西　啓吾

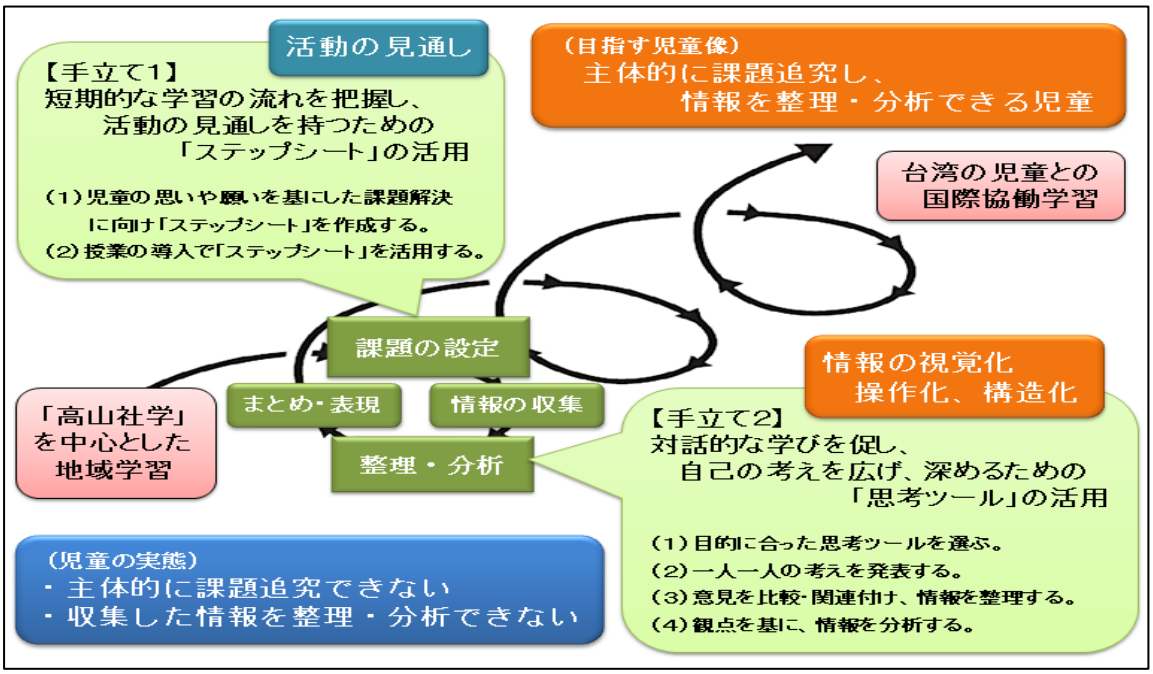
Ⅰ　研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編(平成 29 年６月)では、「総合的な学習の時間は，学校が地域や学校，児童生徒の実態等に応じて，教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすることと同時に，探究的な学習や協働的な学習とすること」が重要であると記されている。横断的・総合的な学習は、一つの教科等の枠に収まらない課題に取り組む学習活動を通して、各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活に生かし、それらが児童の中で総合的に働くようにすることを大切にしている。平成 29 年度群馬県学校教育の指針において、総合的な学習の時間では「探究的な学習を充実させるための適切な単元計画を立てること」や「考えを広げたり深めたりするための対話的な学びを実現すること」が指導の重点として挙げられている。

本学級の児童は、与えられた課題に対しては意欲的に調べ、模造紙や新聞などにまとめることができる。しかし、「自ら課題を見付け、計画を立て、課題追究をすることができず、活動が滞ってしまう児童」や「収集した情報を整理・分析できず、調べたことをそのまま書き写して発表してしまう児童」が見受けられる。このような姿が見られるのは、児童が活動の見通しを持つことができていないことや、収集した情報を比較・分類し傾向を読み取ったり、複数の情報を組み合わせて新しい関係性を創り出したりするなど、情報に対しての自己の考えを広げ、深める方法を知らないためだと考えた。そこで、高山社学（藤岡市）を中心とした地元群馬の地域学習の成果を海外の児童に伝える国際協働学習において、児童が短期的な学習の流れを把握し、活動の見通しが持てるようにステップシートを活用したり、対話的な学びを促し、自己の考えを広げ、深めるための思考ツールを活用したりすることで、主体的に課題追究し、情報を整理・分析できると考え、本研究テーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

高山社学（藤岡市）を中心とした地元群馬の地域学習の成果について海外の児童に伝える国際協働学習では、主体的に課題追究し、情報を整理・分析できる児童を育てるために、児童が見通しを持って課題を追究するための活動の工夫や、児童の思考の広がりや深まりを大切にした活動を行っていくことが必要になる。そのため、以下の二つの手立てを考えた。

手立て１　短期的な学習の流れを把握し、活動の見通しを持つための「ステップシート」の活用

課題を設定する場面において、児童の思いや願いを基に課題を設定し、ステップシートを作成することで、短期的な学習の流れを把握することができる。また、めあてや活動の手順を考える授業の導入において、ステップシートを活用することで、児童が学習活動に見通しを持つことができる。

手立て２　対話的な学びを促し、自己の考えを広げ、深めるための「思考ツール」の活用

情報を整理・分析する場面において、小集団で思考ツールを活用することで児童は思考の流れを構造化し、新たな見方や考え方を見いだすことができ、自己の考えを広げ、深めることができる。

＜手立て１について＞

児童が主体的に活動に取り組むためには、学習活動に見通しを持つことが必要である。そこで、課題を設定する場面では、児童の思いや願いを基に課題を設定し、課題追究のための手順をクラス全体で話し合い、ステップシートに学習計画を立てる。ステップシートとは、学習のゴールを見据えた活動の手順を示したもので、短期的な学習の流れが分かるフローチャートである。また単位時間の授業では、児童が進捗状況を把握するためにステップシートを活用し、本時のめあてや活動の手順を考えることができる。これらの活動を通して、児童は学習活動に見通しを持ち、主体的に課題追究ができると考えた。

＜手立て２について＞

児童は集団で情報を整理・分析することにより、新たな見方や考え方を見いだすことができる。集団で情報を整理・分析していくためには、情報を視覚的に捉えやすくし、操作性を高め、構造化できる思考ツールを活用していくことが有効であると考える。思考ツールを活用させることで、対話的な学びを促し、児童一人一人の考えをつなげたり、広げたり、深めたりすることができる。これらの活動を通して、思考の流れを構造化し、新たな見方や考え方を見いだすことができ、自己の考えを広げ、深めることができると考えた。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　児童の思いや願いを基に課題を設定し、課題追究のための手順をクラス全体で話し合い、ステップシートを作成することで、児童は短期的な学習の流れをしっかりと把握し、活動に意欲を持つことができた。

○　各授業の導入で、ステップシートを活用し、めあてにつなげ、学習活動の見通しを持たせたことで、児童は主体的に課題追究することができた。「活動の流れが分かり、次にどうすれば良いか考えやすかった」「前回の授業で分かったことを生かして授業に臨めた」などの意見が挙げられた。

○　児童が情報を思考ツールで分類し、内容を検討する中で、グループ内で活発な対話が生まれた。また、思考ツールを活用したことで児童一人一人の考えが可視化でき、操作しながら考え、構造化することで新たな見方や考え方を見いだすことができた。

２　課題

○　授業の中でステップシートを活用し、めあてを立て、活動の見通しを持たせることに時間がかかりすぎたため、活動の中心となる課題解決に十分な時間を確保できないときがあった。児童が授業のめあてを短い時間でしっかりと意識できるような授業の導入を更に工夫する必要がある。

○　情報を整理・分析する場面で、情報を分類やラベリングする作業に時間がかかってしまい、深い学びにつながる分析に至らないことがあった。分析する時間を確保するとともに、情報を分析するための観点を明確にするなどの見通しを持った学習計画が必要である。

実践例

１　単元名　　「伝えよう　群馬のたからもの」（第６学年・１～３学期）

２　本単元について

児童は、これまでの総合的な学習の時間や社会科での学習を通して、藤岡市や群馬県についての地域学習を行ってきている。６年生社会科においても、藤岡市の高山社と関連のある世界遺産である「富岡製糸場と絹産業遺産群」について現地調査を行い、自分たちの暮らしている地域について理解を深めてきた。そこで本単元では、今年度から所属校がユネスコスクールに加盟したことを踏まえ、「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」（以下、アートマイルと表記）に参加し、今まで学んできた地域学習の成果を「群馬のたからもの」として、海外の児童に伝える活動を行う。このプロジェクトでは、海外の相手校（以下、海外校と表記）とのテレビ会議システムを利用した「ライブ交流」やネット上の掲示板である「フォーラム」を通して、お互いの地域について紹介し合うなどの国際協働学習を行い、相手の暮らしている地域への理解や自分たちが暮らす群馬に対する理解を深めていく。また、相手が暮らしている地域についても同じように調べ学習を行い、自分の暮らす地域と比較することで、地元群馬への愛着や誇りを一層深め、自己の生き方を見つめ直すことができる。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	○海外の子どもたちと学校や地域について伝え合う国際協働学習や壁画の共同制作などを通して、世界の国々への関心を持ち異文化についての理解を深め、自分たちの暮らす地域のよさを再認識する。 ○他者と協力し助け合ったり、問題解決を行ってきたりしたことを、日常の生活に生かそうとする態度を持つ。	
評価規準	思考力・判断力・表現力等	・自分の生活や体験、知識などから問題を発見し、課題を設定することができる。 ・計画や見通しを持って課題を追究することができる。 ・情報を収集し、選択、判断しながら課題追究に生かすことができる。 ・課題解決したことを自分の方法で表現・伝達することができる。 ・調べたことや考えたこと、人に伝えたい思いを絵で表現することができる。
	学びに向かう力・人間性等	・自分の思いや考えに主体的に関わっていくことができる。 ・意志を持って、最後までやり遂げようとすることができる。 ・文化財や自然、人、資料と関わりながら課題を追究することができる。 ・相手を理解し、自分の思いを伝えることができる。 ・取り組んだことや学んだことを生活に生かすことができる。
	知識・技能	・自分たちの暮らす地域の特色を再認識することができる。 ・相手の暮らす地域の特色を理解することができる。 ・多様な文化を理解することができる。

時間	過程	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	知識・技能（各教科）	段階	主な学習活動
第１９時～第２１時	追究する	・計画や見通しを持って課題を追究することができる。			テーマの国際協働学習（１０月）	・お互いの地域について紹介し合う活動を終え、「分かったことや気付いたことを嘉義の子どもたちに知らせたい」との思いを実現するために、ステップシートを活用して、今後の学習の流れをクラス全体で考える
			・自分の思いや考えに主体的に関わっていく。	・お互いの地域の特色を理解することができる。		・ステップシートを活用して、学習のめあてを立てる。 ・今までの学習を振り返り、お互いの地域の特色を比べ、類似点や相違点について自分の考えをまとめる。
		・情報を収集し、選択、判断しながら課題追究に生かすことができる。	・相手を理解し、自分の思いや考えに主体的に関わっていくことができる。 ・取り組んだことや学んだことを生活に生かすことができる。			・ステップシートを活用して、学習のめあてを立てる。 ・各自の考えをグループ内で発表し、思考ツールを活用して意見を整理する。 ・整理された意見を「嘉義の子どもたちに知らせたいこと」を視点として分析し、まとめる。

３　本時及び具体化した手立てについて

本時は全 35 時間計画の第 21 時に当たる。これまで児童は、台湾の嘉義（カギ）の子どもたちからの様々な依頼に応えながら、双方向による国際協働学習を進めてきた。ここでは「学習を通して分かったことや気付いたことを教えてほしい」という依頼に応えるため、子どもたち一人一人の意見を基にグループで話し合い、嘉義の子どもたちに知らせたい内容を絞る活動を行った。

手立て１　短期的な学習の流れを把握し、活動の見通しを持つための「ステップシート」の活用

課題を設定する場面において、児童の思いや願いを基に課題を設定し、ステップシートを作成することで、短期的な学習の流れを把握することができる。また、めあてや活動の手順を考える授業の導入において、ステップシートを活用することで、児童が学習活動に見通しを持つことができる。

手立て２　対話的な学びを促し、自己の考えを広げ、深めるための「思考ツール」の活用

学習を通して分かったことや気付いたことをまとめ、嘉義の子どもたちに知らせたいことをグループで整理・分析する場面において、思考ツールを活用することで、児童は意見を視覚的に分かりやすく整理・分析し、新たな考え方や見方を見いだすことができる。

４　授業の実際

(1)　導入の場面

導入の場面では、前回までの授業でまとめた掲示物を提示し、前時の学習内容を想起させた。そして、図１のステップシートで活動内容を確認させ、めあてへとつなげた（図２）。

Ｔ：前回の授業では、どのようなことをしましたか？
Ｓ：(前時にまとめた掲示物を見ながら）群馬と嘉義について比べて、分かったことや気付いたことを自分なりにまとめました。
Ｔ：それでは、今日はどのような活動をしていきますか？
Ｓ：(ステップシートを見ながら）個人で考えたことをグループ内で発表して、まとめていきます。
Ｔ：そうですね。では今日の学習のめあてはどうなりますか？
Ｓ：めあては「自分で考えたことを班で発表して分かりやすくまとめよう」です。

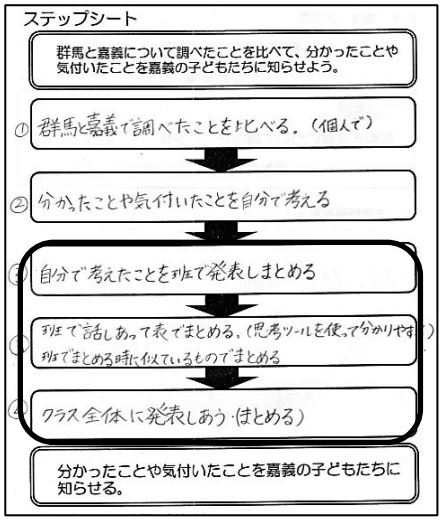


図１　ステップシート

その後、ステップシートを活用し、活動の見通しを考えさせ、課題解決に入った（図２）。

Ｔ：その後、どのように活動していきますか？
Ｓ：(ステップシートを見ながら）初めに分かったことや気付いたことをグループ内で発表します。次にグループで出た意見をまとめます。最後にクラス全体に発表します。
Ｔ：グループで出た意見をどのようにまとめますか？
Ｓ：思考ツールを使います。
Ｔ：どうして、思考ツールを使うのですか？
Ｓ：情報を分かりやすく整理するためです。
Ｔ：そうですね。それでは、自分たちの選んだ思考ツールをアレンジして活用していきましょう。

図２　めあてと活動の見通し

(2)　話合いの場面

話合いの場面では、グループ内で選んだ思考ツール上に、一人一人が自分の付箋を貼りながら発表した。その際、付箋には自分の名前を明記することで学習への参加意欲を高めるとともに、グループや全体の場で自分の考えを客観的に見つめ直すことができるようにした。全員の発表が終わると、内容の分類とラベリング作業に入った。付箋に書かれた内容を確認しながら、班長を中心として意見をまとめた（図３）。ある班では「群馬も嘉義も自然が多い」「群馬では温泉が有名で人々に親しまれているが、嘉義はそうではない」など、群馬と嘉義の共通点や相違点についての意見が挙げられた。

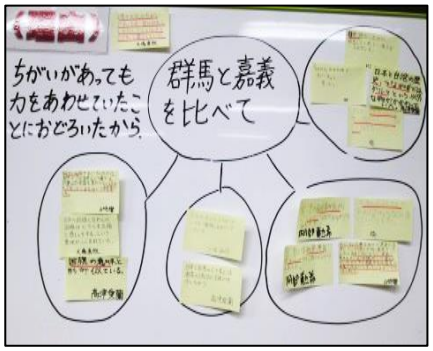


図３　思考ツールの活用

次に、整理された意見を基に「知らせたいこと」をグループで話し合った。ある班では「群馬と嘉義の類似点や相違点ではなく、日本と台湾の人々が一緒に助け合って暮らしていたという事実について知らせるべきではないか」といった新たな見方や考え方が挙げられていた（図４）。

発表の場面では、グループ内で話し合われた内容を全体で共有した（図５）。

図４　活動の様子

図５　発表の様子

学習を通して分かったことや気付いたことを四つにまとめました。

まず、似ているところです。Ａさんからは、国旗に太陽が使われていること、Ｂさんからは、嘉義にも自然が多く、阿里山という有名な山があるということが挙げられました。

次に、違うところです。Ｃさんが、温泉についての考え方で、群馬では温泉は有名で人々に親しまれているが、嘉義はあまりそうではないということが挙げられました。

最後に、びっくりしたことです。ＤさんとＥさんから台湾には世界遺産がないということが挙げられました。

この中で、嘉義のみんなに知らせたいことは、言葉や文化の違いがあっても、日本と台湾の人々は、手を取り合って暮らしていたということです。理由は、違いがあっても、力を合わせていたことに驚いたからです。これで、発表を終わります。

全体での発表が終わったところで、子どもたちの意見を基に教師がキーワード（似ているところ、違うところ、つながり、地域で暮らす人々の思い、もっと知りたいこと）を提示しながら学習のまとめを行った。

⑶　振り返りの場面

振り返りの場面では、本時の学習内容や今後の学習に生かせることなどを記入させた。「群馬のよさを改めて見つめ直すことができた」「学んだことを生かして、台湾に実際に行ってもっと調べてみたい」「グループでの話合いの方法を他の教科でも生かしたい」などの感想が児童から挙げられた。

５　考察

本単元の学習において、ステップシートや思考ツールを活用して、主体的な課題追究を繰り返すことで「群馬も嘉義も宝物があり、豊かな自然は共通の宝物である」「群馬のよさを改めて考えることができた」「台湾の歴史と日本は深い関わりがあり、共に助け合って生活をしてきた」「日本と台湾、群馬と嘉義のつながりを未来に向けても大切にしていきたい」など、多くの気付きや考えが児童から挙げられた。

手立て１では、ステップシートに沿って、めあてや活動の手順を考えさせることで、児童は活動のゴールを見据え、見通しを持って話し合う姿が見られた。「活動の流れが分かり、次にどうすれば良いか考えやすかった」などの意見が挙げられた。ステップシートを使い、長期的な学習計画を細分化することで、児童は活動の流れをしっかりと把握することができた。特に今回のような双方向のコミュニケーションを必要とする国際協働学習では、相手の依頼に応える形で活動が進んでいくため、スモールステップの活動手順を考えさせるツールとしては有効であると感じた。また、短期的なゴール設定が行えるため、児童は主体的に計画を立て、意欲を持って活動に取り組むこともできた。

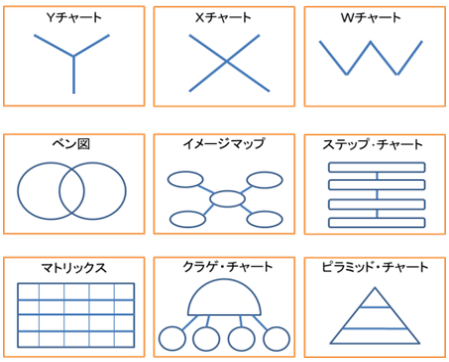
手立て２では、情報を整理・分析するために思考ツールを活用することで、児童は意見を視覚的に分かりやすく整理することができた。「付箋を見ながら話合いに参加できたので、共通点や相違点がよく分かった」などの意見が挙げられた。さらに「嘉義の子どもたちに知らせたいこと」を話し合う場面では、意見を多面的に捉え、考える中で「嘉義と群馬のつながり」や「そこで暮らす人々の思い」など、新たな見方や考え方を見いだすことができた。今までの学習で得られた経験を生かし、課題に応じて自分たちで選んだ思考ツールを活用することで、児童は各自の考えを可視化し、グループで情報を操作しながら考えをつなげ、更に広げ、深めることができた。また、情報を構造化し、分析する中で、新しい見方や考え方を見いだすこともできた。このように思考ツールを活用することは、総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な活用や教科相互の関連的な活用にもつながることが分かった。今後も様々な場面で使用する思考ツールを系統的に活用できるよう実践を重ねていきたい。

６　資料

〈「ステップシート」と「思考ツール」について〉

課題を設定する場面では、「ステップシート」を活用した。「ステップシート」は、思考ツールの一つである「ステップ・チャート」を基に作成したもので、物事を上から下へ順序立てて考える思考スキルを身に付けることができる。

情報を整理・分析する場面では、右表のような「思考ツール」を活用した。児童は「思考ツール」を活用することで、下表のような思考スキルを身に付けることができる。また、繰り返し活用することで、「思考ツール」の特徴を理解し、自分たちが使いやすいように工夫して使うことができるようになる。



思考スキル		主な思考ツール
分類する	物事をいくつかのまとまりに区分する。	Y・X・W チャート、マトリックス KJ 法など
比較する	複数の事象の相違点や共通点を見つけ出す。	ベン図、マトリックスなど
多面的に考える	複数の視点から物事を見る。	イメージマップ、くま手チャート、フィッシュボーン、PMI など
関連付ける	ある事柄と他の事柄とのつながりを見付ける。	イメージマップなど
構造化する	複数の事象を根拠に、論理的に主張を構成する。	クラゲチャート、ピラミットチャートなど
評価する	観点を持ち、根拠に基づいて対象への意見を述べる。	座標軸、ランキングなど

〈アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクトについて〉

海外校と長期間継続して共通の学習テーマについて ICT 機器を活用して協働的に学び合い、学習の成果として１枚の壁画（縦 1.5m、横 3.6mの大型壁画）を共同制作する「国際協働学習」の学習プログラムである。このプロジェクトでは、世界の同世代と協働することにより、学校で育てたい資質・能力及び態度を、世界を意識した広い視点で育てることができ、グローバルな 21 世紀の国際社会で、世界に開く広い視野を持ち、世界の人々と協働して持続発展可能な社会を築いていく力である「21 世紀を生き抜く力」に高めることができる。

〈所属校の総合的な学習の時間とアートマイルとのつながり、学習活動の流れ〉

海外校との国際協働学習は、ICT 機器を活用し、９月から翌年３月まで右表のように段階的に進む。今までの地域を中心とした学習を海外校との国際協働学習に拡げることにより、探究的な学習を更に深めることができる。地域での探究的な学習は、世界に伝えたい相手がいることで新たな視点で自分たちのことを見直し、世界を意識した広い視野で課題を捉え直すことができる。

また、海外校とお互いに地域や国の文化を伝え合うことで、児童は自分の地域や日本に誇りを持つようになり、世界の同世代と１枚の壁画を共同制作することで、文化背景も価値観も異なる世界の人々と協働して何かをすることができるという「自信」が持てるようになる。このように、総合的な学習の時間でアートマイルに取り組むことで、児童は世界を身近に感じ、世界に開く広い視野で「将来の夢」や「自分の生き方」を考えるようになる。

アートマイルの年間活動の流れ
9月【出会い】
自己紹介から国際協働学習スタート
↓
10 月【テーマについての国際協働学習】
調べた内容・情報を共有する
↓
11 月【メッセージの作成と壁画の構図決め】
構図と制作分担を相談する
↓
11 月～2月【壁画制作】
半分ずつ絵を描いて壁画を制作する
↓
3月【鑑賞と振り返り】
作品を鑑賞し、活動全体を振り返る